塩谷町（塩谷郡）

公式サイト　URL https://www.town.shioya.tochigi.jp/.

■町花　ヤマユリ

■町木　ヒノキ

■町鳥　ヤマセミ

市町類型	3－1	R2 年国調人口		10,354 人
財政力指数（R 元～R3 平均）	0.462	住民基本台帳（R4.3.31）	人口	10,483 人
職員数（R4.4.1）	133 人		世帯数	4,033 世帯
職員 1 人当り人口	79 人	面積（㎢）		176.06

■沿革

本町に人類が住み始めたのは不明であるが、考古学の示すところでは、約 1 万年前の旧石器時代の人類の生活の痕跡が残ることが証明づけられている。

奈良時代に高原山中腹に法楽寺が建立されると、大宮、佐貫、風見地区にも寺社が建てられ、この辺りは北関東一の大霊場となり、江戸時代に日光廟が完成すると日光北街道が整備され、宿場町としての賑わいを見せた。

本町は明治 4 年の廃藩置県の改革により宇都宮県に属し、同 6 年宇都宮県廃止に伴い栃木県の所管となり、明治 22 年に町村制が施行され、現塩谷町の北部に玉生村、西部に船生村、南部に大宮村の 3 村が設立された。昭和 32 年には、3 村が合併して現在の町域を持つ塩谷村が誕生し、昭和 40 年に町制が施行され、現在の塩谷町となった。

■地勢

本町の面積は 176.06 平方 km で、約 60%が山林原野、東西 18km、南北 21km の三角形をなし、栃木県全面積の約 2.76%にあたる。

交通としては東北自動車矢板 IC から約 5km、町中央を東西に走る国道 461 号と南北に走る主要地方道藤原宇都宮線が交差し、東に矢板市・大田原市、西に鬼怒川温泉・日光の観光地、南に宇都宮市、北に塩原温泉・那須温泉の観光地をひかえており、いずれの地区にも 1 時間弱でいけるという恵まれた場所にある。

北部には、日光国立公園の一部である高原山があり、林産資源に富み、いずれも一級河川である荒川と鬼怒川が町の両側を囲みながら南流し、中部から南部にかけては肥沃な農業地帯となっている。

標高の最も高いところは、町の最北端高原地区にある釈迦ヶ岳の海抜 1,794.9m で、最も低いところは、肘内地区の海抜 181m である。

■観光

昭和 60 年に東荒川ダムの北、尚仁沢に湧出する水が名水として環境庁(当時)の認定(全国名水百選)を受けて名声を集め、その尚仁沢湧水を求めて多くの人が水汲みに訪れている。また、この尚仁沢上流部に広がる「尚仁沢上流部イヌブナ自然林」は、平成 19 年に国の天然記念物に指定された。その他に弘法大師一夜の作といわれている国指定文化財の佐貫石仏、とちぎの自然百選の籠岩、利根川百景の観音橋、春の新緑・秋の紅葉と渓谷が絶景の大滝など自然が豊かであるからこその観光資源が多く存在する。

■産業

農業：

町の西側に鬼怒川、東側に荒川といった2つの河川に挟まれた所にあり、その恵まれた水環境と肥沃である土地という基礎的要素を利用し、水稲を基幹産業として発展してきた。近年ではトマト・キク・ナシ等の施設園芸や畜産等が盛んに営まれている。

工業：

塩谷工業団地を中心に、町全域に中規模な工場が多く分布し、町民の貴重な就業の場となっている。

商業：
自然発生的な路線商店街が中心となっているが、スーパーマーケット等の中規模店舗の進出もあり、消費者の流れにも変化が見られており、従来の商店街との均衡をとった発展が今後の重大な課題となっている。

■その他特徴のある事項

構造改革特区を活用し、株式会社の運営する通信制高等学校が、旧大宮中学校跡地に開校。平成 25 年 10 月より私立の高等学校として新たなスタートをきった。水田・畑・山林(全て町有地)などが学校敷地に隣接した恵まれた学び舎の環境は、体験型の教育を目指す同校の基本方針に適合しているばかりでなく、本町の教育を取り巻く環境にも、爽やかな風を吹き込んでくれている。また、同校では、旧塩谷高等学校を「体験学習館（開桜館）」として活用、生徒たちが育てた農林産物を自分たちで調理して食したり、地元の食文化や伝統文化を体験したりするなどの室内体験学習の拠点と位置づけ、さらに幅広い体験学習に対応できる体制が構築されている。

■施政方針

町の目指すべき将来像を「豊かな自然に育まれ　人と人とがつながり　安全安心に暮らせる塩谷町」として展開してきたが、地方創生の流れや雇用環境の変化、情報通信技術の発達などの社会情勢の変化に対応していくため「第６次塩谷町振興計画」を令和3年３月に策定。

同様に、「第２次塩谷町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。上記計画で示される施策の方向性や具体的な取組等との整合性を勘案し、今後５年間で重点的に取り組むべき施策・事業を掲げ、「住みたい」、「住み続けたい」と思えるまちづくりを推進していく。

■重要事業

事業名	予算額（千円）	事業の概要
新庁舎建設事業	1,034,790	令和５年１０月開庁に向け、町民が利用しやすく、緊急時には防災拠点となる新庁舎の建設事業を進めます。
とちぎ国体開催事業	218,260	第 77 回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）カヌー競技大会を開催します。
デマンド交通・生活路線バス運行事業	68,860	交通手段の確保を図るため、デマンド交通と生活路線バスを運行します。
新型コロナウイルス対策事業	47,230	新型コロナウイルス感染症対策として、ワクチンの接種や感染症防護対策キット等の購入、自宅療養者支援品の提供を行います。
DX（デジタルトランスフォーメーション）推進事業	31,480	自治体 DX 推進計画を推進し、町民へのサービス向上が図られるよう、マイナンバーカードの取得の促進、職員向け DX 研修会の開催等を行います。
脱炭素社会推進事業	21,900	脱炭素社会に資する再生可能エネルギーの賦存量や、利用可能性を調査し、活用に向け計画を策定する。 併せて木材の公共施設等への利用を促進する。
移住定住促進事業	11,200	移住を検討している人達への情報発信を行うため、移住者向けコンテンツやホームページを作成します。また空家改修に対する補助等を行います。
健康づくり町民運動推進事業	6,540	国民健康保険 1 人当たりの医療費県下最下位クラスからの脱却を目指し、町民の健康増進の機運醸成を図ります。

		併せて、ウォーキングの町づくりの推進、健康ポイント事業の実施、ウォーキング大会の開催等を行い、町民の健康増進につなげます。

■地域指定の状況について

過疎地域・山村振興地域・中山間地域・農村地域工業導入促進地域・都市計画区域・農業振興地域・教育特区・栃木県再生可能エネルギービジネスモデル創造特区